

H2O 教区新報



兵庫教区教務所
ホームページ



兵庫教区教務所
facebook



浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号（本願寺神戸別院内）
電話 神戸(078)341-5949(代)

[編集] 兵庫教区広報部

2019.9 206号



映画のチラシより

史を振り返り、かつてわが宗門が戦争協力をした事実を踏まえ、二度と同じ過ちを犯してはならない。そして戦争反対を貫いた僧侶たちがいたことを忘れてはいけない」と、今回の趣旨を開催した。

本作品は、かつて国を挙げ、国民を挙げて戦争に突き進んでいった第二次世界大戦の最中に、特高警察から逮捕されながらも、「仏教の教え」の第一は不殺生・人の命を損なう戦争は罪悪で

ある」との主張を曲げなった当時の僧侶達をモデルに、「非戦・平和」の思いを込め新たな物語として創作されたものである。

上映に先立ち、非戦・平和推進検討委員会の藤榮行信委員長が、「歴後の大戦の恐ろしさ、平和の大切さがよくわかり考えさせられました」（六〇代女性）、「私は終戦の時小学校の二年生でした、大阪で空襲に会い、もうあんな戦争は絶対にいやです。そんな思いを新たにしました」（八〇代女性）、「時代に流れられるな、私への問い合わせだけだと思いました」（四〇代男性）等の言葉をいただいた。

参加者共々に、非戦・平和への願いを新たにした上

非戦・平和を願い映画上映

兵庫教区では、昨年度より「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）教区委員会に、専門委員会「非戦・平和推進検討委員会」を設置

し、研修会の開催など、非戦・平和の啓発活動を行っている。今年度は、九月五日に『明日へ - 戦争は罪悪である』の映画上映会

が宗門が戦争協力をしたことを忘れてはいけない」と、今回の趣旨を貫いた僧侶たちがいたことを忘れてはいけない。そして戦争反対を貫いた僧侶たちがいたことを忘れてはいけない」と、今回の趣旨を貫いた僧侶たちがいたことを忘れてはいけない」と、今回の趣旨を

語つた。

本上映会には、六〇～七〇代の方を中心の一四〇名以上が参加。上映後のアンケートでは、「戦争の恐ろしさ、平和の大切さがよくわかり考えさせられました」（六〇代女性）、「私は終戦の時小学校の二年生でした、大阪で空襲に会い、もうあんな戦争は絶対にいやです。そんな思いを新たにしました」（八〇代女性）、「時代に流れられるな、私への問い合わせだけだと思いました」（四〇代男性）等の言葉をいただいた。



先日、高校
からの友人
夫婦の家に
魔した時
になる男の子がいて、私の
ことをじっと見つめて、人
見知りをしながらも、笑顔
をたくさん見させてくれま
した◆一人とは久しぶりに
会ったこともあり、ゆっく
りしていると、食事の時間
になりました。お父さんが
食事用の椅子に座らせる
と、その男の子は手を合わ
せて「んっ」と言つて、につ
くり微笑んでいました。ま
だ言葉が話せない彼なり
の「いただきます」をして
いたのです◆本当に大切
なことが「両親から確かに
伝わっていたのです。その
姿が本当にありがたいこ
と、尊いことと感じさせて
いただきました。私がお念
仏に出遇わせていただき
ことも、阿弥陀様からのお
はたらき、先達方のお導き
があつたおかげであります
◆今私がお念佛をお称え
させていただくことが本当
に尊いことであつたと、改
めて味わさせていただいた
出来事でありました。

◆今私がお念佛をお称えさせていただくことが本当
に尊いことであつたと、改
めて味わさせていただいた
出来事でありました。

赤穂南組 誓教寺 霜尾更澄

ご消息披露式典

九月二日、神戸別院本堂にて、第二十五代専如ご門主より発布された「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年についてのご消息」披露の総局巡回と公聴会が開催された。

五〇年、立教開宗八〇〇年
慶讚法要の意義について
③「得度式規程」等の制定
についての報告が行われた。
続く協議会では、①「賦
課基準」の見直しについて
②「僧侶育成体系プロジェ



クト」についての説明が行われた。

第一部の式典で「ご消息の披露」が行われ、第二部の公聴会では、①「子どもたちの笑顔のために募金」のお願い②「親鸞聖人御誕生八庫教区宗会議員」が出向。総長・三宮亨信特命布教講師（滋賀教区正源寺）、多田満之法要準備事務所長（兵庫教区宗会議員）が出向。

門徒宗会議員欠員による補欠選挙施行の宗告発
北本誠氏

十七日（水）に開催され、布をうけ、兵庫教区門徒宗会議員補欠選挙が七月
立候補者二名について投票の結果、北本誠氏（北摂組元畠寺門徒）が、兵庫教
区門徒宗会議員に選出された。

浄土真宗の教学相談 第5回

浄土真宗のみ教えに関して、さまざまなご質問をお持ちの方がいらっしゃるのではないかでしょうか。この度の連載では、これまでお聞きした教学相談の中からいくつかのご質問を取り上げ、お聖教の言葉を依り所にしながら考えてみたいと思います。

宗教と科学には、それぞれが大切にしている領域があります。科学が大切であることはいうまでもありませんが、科学では解決することのできない、複雑な「情」の世界に根ざし、日々、苦しみや悲しみを抱えて生きているのが、私たちの現実の姿です。

この苦悩を抱えて泣き笑いする、凡情を断ち切ることのできない私の想いのそのままに、お浄土への道を歩ませていただく教えが、浄土の教説でした。

舍利弗、衆生聞かんもの、まさに発願してかの国に生ぜんと願ふべし。ゆゑはいかん。かくのごときの諸上善人とともに一処に会するふことを得ればなり。

（『仏說阿彌陀經』）

宗教と科学には、それぞれが大切にしている領域があります。科学が大切であることには、今までありませんが、科学では解決することのできない複雑な「情」の世界に根ざし、日々、苦しみや悲しみを抱えて生きているのが、私たちの現実の姿です。

この苦悩を抱えて泣き笑いする、凡情(ぼんじょう)を断ち切ることのできない私の想いのそのままに、お淨土への道を歩ませていただきましたが、淨土の教説でした。

を支え続けてきた仏語でした。本来、形や言葉を超えた净土の世界は、凡夫に確認できる世界ではなく、科学的に証明することもできない真理の領域です。だからこそ浄土の教説は、知的に分析していくのではなく、情的な想いのかたで味わわせていただく教説であるとも言われてきました。別れたくない、まだつま

かで、確かに世界としてまします
す、浄土の存在を知らしめられ
ていくのです。まさしく浄土の
世界は、私の力で知っていく世界
ではなく、はからいなく受け入
れた本願の仰せによつて、知らさ
れていく世界だといえましょう。
かなならずかなならず 一つと一
ろへまゐりあふべく候ふ。

がつて いたい、そんな想いを抱えて 生きている私たちのために、阿弥陀さまは「俱会処」のお淨土を建ててくださいました。阿弥陀さまに救われた者は、決して別なる処へ往くではありません。阿弥陀さまから同じ仏因(信心)をいただき、同じ「俱会一処」の仏果(淨土)へと参らせていただくのです。

だくのです。
真理の領域の、ほんの一欠片ひとかけも分かり得ない愚かな凡夫に、「どうか私の国に生まれてきておくれ」と大悲を込めて喚びかけてくださいる本願の仰せを聞きました。受けた時、私たちは無常であつてこの娑婆世界よりも、もつと豊

(『親鸞聖人御消息』)



布教使百名超が一堂に

～第三連区布教使研修会～



八月二十一日（二十二）日にかけて、本願寺神戸別院・メリケンパークオリエンタルホテルを会場で「二〇一九年度第三連区布教使研修会」が開催され、百名を超える布教使が参集、別院本堂満堂の中、研修が行われた。

本研修会は、布教団連合後援のもと、近畿六教区（和歌山・滋賀・京都・奈良・大阪・兵庫）の布教団が主催となり、各教区持ち回りで毎年開催されている。本年度は兵庫教区が主幹となつて開催された。研修のテーマは、「念佛

悲」が説かれてあるとう所でいただからないと、その真意を見誤る」との厳しくも基本的かつ大切な事をお話ししていただきました。

また、赤井師は、『ご法

義をわかりやすく伝える

～淨土真宗のご利益を通して～』と題し、「わかりやすさとは、実体験（仏事・お聴聞）・言葉（解説・説明）・現実感（共感・共振）である」と具体的に提示した上で、ご親

第一日目は、ご親教の「あらゆる人びとに阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝え」というお言葉をうけ、お取次ぎの際に「正しさ」「わかりやすさ」についてどの様に注意を払うべきかを、満井師には教学面で、赤井

講義では、過去に布教の場で行われた差別法話よ

り、差別表現とその問題性についてお話しいただき、差別は他人事ではなく自分自身の課題として考えていくべきこととして問題提起をいただき、参加者一同、同じ差別の歴史を繰り返さないことが大切であるとの意識を新たにしました。

者の生き方——「親教のお心を体して！」。ご講師は、満井秀城師（浄土真宗本願寺派総合研究所副所長）、赤井智顕師（浄土真宗本願寺派総合研究所研究員）、登尾朋研修講師（布教団連合同唯信師）の三名。

第二日目は、ご親教の「あらゆる人びとに阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝え」というお言葉をうけ、お取次ぎの際に「正しさ」「わかりやすさ」についてどの様に注意を払うべきかを、満井師には教学面で、赤井

講義では、過去に布教の場で行われた差別法話よ

り、差別表現とその問題性についてお話しいただき、差別は他人事ではなく自分自身の課題として考えていくべきこととして問題提起をいただき、参加者一同、同じ差別の歴史を繰り返さないことが大切であるとの意識を新たにしました。

2日目 質疑の様子

満井師は、『ご法義を正しく伝える』「隨順仏語」と「順彼仏願」～と題し、「正確なお聖教の文に基づかない法話は独り言でしかなく、また、經典拝読の姿勢は「如來様のお慈

悲」が説かれてあるとう所でいただからないと、その真意を見誤る」との厳しくも基本的かつ大切な事をお話ししていただきました。

兵庫教区

青年僧侶の会 40周年記念

四代目桂春園治 師匠
釈徹宗 師

お誘い合わせの上
お越し下さい！



令和2年 2月24日(月)13:00～

講 師 四代目桂春園治 師匠
釈徹宗 師
場 所 神戸別院

参加費
無 料



C M流れています!
～「モダン寺」のラジオ広告～

「ありがとうございます浜村淳です」は、毎週月曜～土曜までの午前中に、MBSラジオ（毎日放送）が関西ローカルで放送している生ワイド番組です。

そのラジオ番組が四十五周年を迎える事からご縁をいただき、「モダン寺」（神戸

月曜～金曜の九時二十五分頃に聞くことができます。



ありがとう
浜村淳です

毎週月曜日から土曜日あさひ8時から放送中

期間は十二月末までを初期として予定しております。是非ともお聴きください。

一一〇一九(令和元)年度 本願寺神戸別院 報恩講法要

【期日】十一月二十六日(火)～二十八日(木)

【ご法話】九條 孝義師(滋賀教区甲賀組報恩寺)

報恩講は、親鸞聖人のご遺徳を偲び、その苦労を通じて、阿弥陀如来のご本願によるお救いをあらためて心に深く味わわせていただく法要です。

親鸞聖人の三十三回忌のご法要にあたり、本願寺第三代覺如上人がそのご遺徳を讃仰するため『報恩講私記』をご制作になられ、以来、聖人のご命日の法要は報恩講として、大切にお勤めされてきました。

本願寺第八代蓮如上人がお示しのとおり、正しくお念仏のいわれを聞かせていただき、身にいたたくことが聖人の御恩に報いる道です。

神戸別院の報恩講は、十一月二十六日から二十八日までお勤めいたします。どうぞ一緒に、お念仏の道をお示しくださった親鸞聖人のご遺徳を偲ばせていただき、お念仏に出遇到了喜びをこの身に受け、共々にお念仏申しましよう。

皆様のご参拝を、心よりお待ちしております。



日 程

二十六日(火)

十四時 逮夜法要
十六時 初夜法要

二十七日(水)

十時

日中法要
十四時 大逮夜法要
十六時 初夜法要

二十八日(木)

十時 満日中法要

教化団体等参拝奨励日

二十六日(火)
佛教婦人会連盟

二十七日(水)

門徒総代会・寺族婦人会
連盟・少年連盟・仏教青年連盟

二十八日(木)

佛教壮年会連盟・門徒推進員・スカウト連盟・講社
※参拝奨励日に関わらず、どの日でもご参拝ください。

西陣織元
製造直売 丸西宗教織物株式会社
(兵庫教区参与会員)

企画・製造・縫製・オリジナル商品販売

本社 京都市下京区西半願寺前店

電話 0120-075-024 FAX 0120-051-881
(マルニシ)

製造部 京都市北区西陣織地区

電話 0120-075-461 FAX 0120-613-855

取扱商品

製造部
御法衣袈裟・法要
記念品・小物類・仏
具・翠簾・念珠他
稚児衣裳レンタル

クリーニング部
御法衣袈裟・着物
帯・仏具・袈裟・打敷
裏替修理・翠簾・幕



製造部

縫製部